

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立港晴小学校協議会

1 総括についての評価

本年度の自己評価結果の総括は概ね妥当である。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】においては、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答した児童の割合が82.3%となり、目標値を上回った点は評価できる。いじめアンケートの定期的実施や組織的な情報共有体制の強化が機能していると判断できる。一方、「学校に行くのは楽しい」とする学力経年調査の結果は目標値に届かなかったが、校内アンケートでは高い肯定的回答が示されており、分析も丁寧に行われていることから、総括の内容は妥当である。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】については、数値目標の一部が未達成であるものの、全教員による研究授業の実施や継続的な体育的行事の実施など、組織的な取組は着実に進められている。成果と課題の両面を明確に示した自己評価は適切である。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】についても、ICT 活用の定着や働き方改革への取組が具体的に示されており、現状分析と今後の課題整理は妥当である。勤務時間基準2の維持に向けた努力は高く評価できる。

総じて、本年度の自己評価は客観的なデータに基づき、成果と課題を整理した内容となっており妥当である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標1:安全・安心な教育の推進

○達成状況の評価は妥当である。

いじめアンケートの年3回実施や迅速な聞き取り体制の構築など、計画どおりの取組がなされている。数値目標を達成した点は評価できる。

「学校に行くのは楽しい」の項目については、学力経年調査では未達であったが、校内アンケートとの差異について丁寧な分析が行われている点は評価できる。今後は、心理的安全性のさらなる向上と、児童一人ひとりへのきめ細かな支援の充実を期待する。

年度目標2:未来を切り拓く学力・体力の向上

○達成状況の評価は概ね妥当である。

研究授業の全員実施や討議会の充実など、授業改善への組織的取組は高く評価できる。一方で、「話し合い活動を通して考えを深める」項目の最も肯定的な回答が目標値を下回ったことから、対話の質を高める具体的方策の充実が求められる。

体力向上については、縦割り活動やなわとび週間等、年間を通じた継続的取組が行われている。運動が苦手な児童も参加できる工夫がなされている点は評価できるが、最も肯定的回答の向上に向けたさらなる工夫を期待する。

年度目標3:学びを支える教育環境の充実

○達成状況の評価は妥当である。

「心の天気」や連絡帳機能の活用など、ICTを日常的に活用する環境づくりは前進している。教育DXの推進に向けた基盤整備は評価できる。

働き方改革については、基準2の維持を目標として取り組みが進められている。授業研究の充実と勤務時間管理の両立は容易ではないが、持続可能な組織体制づくりを今後も継続されたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

○「安全・安心な教育の推進」において、いじめ・不登校・日本語指導対応など多様な課題に対し、組織的に対応している点は評価できる。今後も児童の声を丁寧に受け止める体制の維持を期待する。

○「未来を切り拓く学力・体力の向上」に向け、研究授業を軸とした授業改善を継続するとともに、子ども同士が対話を通して学びを深める授業づくりを一層充実されたい。

○ICT活用については、量的活用から質的活用へと発展させ、学力向上と結びつく実践研究を進めてほしい。

○教職員の働き方改革は、子どもたちの学びを支える基盤である。地域としても可能な支援を行いながら、持続可能な学校運営を共に築いていきたい。

○学校再編を見据えた中期的視点を持ちつつ、地域との連携をさらに強化し、地域に開かれた学校づくりを進めていただきたい。